



平成 30 年 8 月 7 日

管内経済情勢報告

平成 30 年 8 月

財務省福岡財務支局

【問い合わせ先】


財務省 福岡財務支局 経済調査課

TEL 092-411-9038

FAX 092-452-1318

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復している」








項目	前回（30年4月判断）	今回（30年7月判断）	前回比較
総括判断	回復している	回復している	

（注）30年7月判断は、前回4月判断以降、足下（7月末）の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売額や乗用車販売が前年を下回っているが、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額が前年を上回るなど、回復している。生産活動は、自動車が海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移するなど、改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（30年4月判断）	今回（30年7月判断）	前回比較
個人消費	回復している	回復している	
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	29年度は増加見込み	30年度は増加見通し	
企業収益	29年度は増益見込み	30年度は増益見通し	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を下回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響等海外経済の不確実性や、平成30年7月豪雨の影響などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復している」

百貨店・スーパー販売額は、百貨店では高額品や化粧品が好調であるものの、スーパーでは飲食料品や衣料品が低調なことなどから、全体では前年を下回っている。なお、一部に平成30年7月豪雨の影響がみられるとの声が聞かれる。コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果に加え、店内調理の食料品が好調なことなどから、前年を上回っている。乗用車販売は、軽自動車では新型車が好調なため前年を上回っているものの、普通車、小型車が前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、飲食料品等を中心に好調なことなどから、前年を上回っている。家電販売額は、機能性の高い白物家電、テレビ、エアコンに動きがみられたことなどから、前年を上回っている。ホームセンター販売額は、冷房器具等に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍く、前年を下回っている。このように、個人消費は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 青果は価格が下落したものの、販売数量が追いつかず売上が減少した。惣菜は中食需要の高まりもあり、好調を維持している。(スーパー、大企業)
- 新規出店を継続しているほか、レジ横のファーストフード商品、弁当、総菜等が好調である。(コンビニエンスストア、大企業)
- 新規出店を継続しており、飲食料品や日用品を中心に好調なほか、足下ではアイスや日焼け止めなど季節商品に動きがみられている。(ドラッグストア、大企業)
- 家電エコポイント導入時の購入品の買い替え需要もあり、単価の高い高付加価値の白物家電やテレビが好調である。足下では気温が高い日が続いており、エアコンに動きがみられる。(家電販売店、大企業)

■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送用機械の自動車は、海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。鉄鋼は、国内外向けの自動車用鋼材や海外向けの軌条が好調なことなどから、高い操業を維持している。電子部品・デバイスは、車載向けを中心に引き続き好調に推移している。造船は、高めの操業を維持しているものの、受注価格は低い状態が続いている。このように、生産活動は緩やかに回復している。

- 海外向けを中心に引き続き好調な動きとなっており、工場はフル操業の状態となっている。(自動車メーカー、大企業)
- 自動車向け鋼材の生産は国内外ともに受注が好調であることや、海外向けの軌条の生産が好調に推移していることなどから、工場は高操業の状態となっている。(鉄鋼、大企業)
- ハイブリッド車の電子機器制御などに使用される製品の需要が高く、引き続き好調に推移している。(情報通信機械器具、中堅企業)

■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は引き続き高水準で推移している。新規求人数は、医療・福祉業及び卸売業・小売業等で増加している。新規求職者数は引き続き前年を下回っている。このように、雇用情勢は改善している。

(参考) 福岡県の賃金の動き

現金給与総額は前年を下回っている。

- 新規出店を進めており、人手が不足している状態が続いている。小売は立ち仕事の重労働で人が集まりにくいいため、時給を上げ、有給休暇の積極的活用を推進するなどして人材確保に努めている。(小売、大企業)
- 業界全体として慢性的に人手不足。賃上げや、勤務の短時間化など色々と対策をとっているが、中々人は集まらない。(医療・福祉、中堅企業)
- 新規求人は医療・福祉業及び小売業の新規出店等により伸びており、企業の求人意欲は高いなか、新規求職は前年同月を下回っており、有効求人倍率は当面現状の高水準が続く見込み。(労働局)

■ **設備投資** 「30年度は増加見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年4-6月期

- 製造業では、窯業・土石製品等で増加見通しとなっているものの、自動車・同附属品、パルプ・紙・紙加工品で減少見通しとなっており、全体では減少見通しとなっている。
- 非製造業では、金融、保険等で減少見通しとなっているものの、運輸、郵便、小売等で増加見通しとなっており、全体では増加見通しとなっている。

- 昨年度同様、新型車に関する設備投資を行うものの、昨年度より投資額が減少するため、反動減。(自動車・同附属品、大企業)
- 新型車両の導入等の安全投資のほか、商業ビル開発などの不動産関連投資を計画。(運輸、大企業)

■ **企業収益** 「30年度は増益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年4-6月期

- 製造業では、情報通信機械器具等で減益見通しとなっているものの、自動車・同附属品等、その他の輸送機械器具等で増益見通しとなっていることから、全体では増益見通しとなっている。
- 非製造業では、情報通信等で減益見通しとなっているものの、小売、建設等で増益見通しとなっていることから、全体では増益見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅の増加などから前年を上回っている。




■ **輸出** 「前年を上回っている」

- 輸出(円ベース)は、一般機器、電気機器を中心に増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(30年4-6月期)の景況判断BSIで見ると、30年4-6月期は、「下降」超に転じている。先行きについては、30年7-9月期に、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 管内各県の総括判断

	前回(30年4月判断)	今回(30年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	回復している	回復している		個人消費は回復しているほか、生産活動は緩やかに回復しており、雇用情勢は改善している。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は持ち直しているほか、生産活動は持ち直しており、雇用情勢は改善している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあるほか、生産活動は緩やかに持ち直しており、雇用情勢は改善しつつある。